

巡回はきちんと行う事により犯罪、火災による被害の発生を防止し、万が一被害が発生した際にはその極小化を図ることが出来ます。

しかし・・・

人間は楽をしたいという欲求が強い生き物。どれだけ口を酸っぱくして指導をしても忘れてたり端折ったりしてしまう事がゼロにはなりません。

なぜ人間は楽をしようとするのでしょうか。

ロープを引くときの例です。ロープを引くとき、1人で引っ張った場合を100%とすると、2人の場合は93%、3人では85%、8人では49%と、1人では100%の力が8人になると半分以下の力でロープを引きます。

人は集団行動や共同作業を行う時に**無意識のうちに手抜きしてしまう**現象で、「リンゲルマン効果」と呼ばれています。

ではなぜこのような現象が起こるのでしょうか？最大の理由は集団内での自分の存在感を認識できないからです。

リンゲルマン博士の実験では、自分の努力で綱引きの勝敗が決まるわけでもないので最善を尽くすという気持ちが生まれてこなかったのです。

これは集団での実験ですが、「自分の存在意義」「巡回の意義」が薄くなると手を抜いてしまうという事です。

「最近は何もないから1回くらい巡回しなくてもいいだろう」「巡回してもしなくても変わらないよ」という気持ちが経験が長い人ほど強くなります。

また、そうした意識が忘れるという事にも表れてしまいます。

工場などではよく耳にしますが、「ハインリッヒの法則」という言葉をご存知でしょうか。これは労働災害におけるミスの発生頻度を表した統計で、「大事故：小事故：ヒヤリ・ハット（事故に直結しかねないミス）」が「1：29：300」の割合で起こる、というものです。

大事故がひとつあれば、29個程度の小事故があり、その陰には300の危うく惨事を招くようなヒヤリ・ハットがあったということです。

巡回を怠ると火元や窓の確認また、不審者・不審物の確認も出来なくなります。こういった事が積み重なると大事に発展する。巡回を怠っても事件・事故が起きなければ表ざたになる事はありません。これは非常に**危険**な事です。

これらの諸問題を改善する場合、多くの組織では「周知徹底」「教育訓練」「管理強化」と安易な精神論に頼ってしまいがちです。これは「三大無策」と言われております。

人のモラルに頼っても駄目だという事です。これは現代において、ニュース等の事件を見れば火を見るより明らかです。

では、巡回業務においては何をすれば改善出来るのでしょうか。

根本的な改善をするには「巡回業務」の重要性を巡回者に認識して頂く事です。

ただ認識させる・・・だと「**三大無策**」になり効果がありません。

そこで必要なのは巡回しているという記録を取る事。それも改ざん出来ない方法で、です。記録をしっかりと取る事により、巡回者は巡回しなければいけない事が分かってしまうという意識がまず生まれます。これだけだとただのプレッシャーを与えるだけで反感が出てきますので、記録を取る意義を説明します。「貴方が行っている**巡回業務**は施設を安心してご利用頂く為に**非常に重要な業務**なのだ」という事をです。依頼する側は巡回業務が重要な業務だという認識を持っている事を分かって頂く必要があります。

巡回記録が改ざん出来ないようなシステムはあるのか？

あります。それが「**パトラスト**」です。

パトラストは全国の刑務所をはじめ全国で多数の導入実績があり、巡回業務に効果が出ております。

さらに、

- ・ 完全な改ざん防止機能を備えております。
- ・ 機器は**日本製**。ソフトウェアも**自社開発**。Windowsのバージョンアップでも**生涯動作保障**。

と、安心してご利用頂けます。